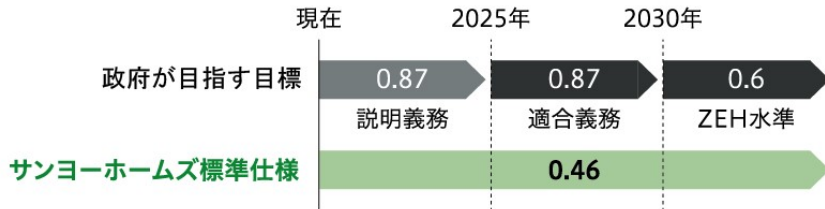


■ ZEHのさらに先にある住まいを標準化

「2030年には新築戸建の平均でZEHを目指す」という政府の目標に対し、サンヨーホームズでは先を見据えて、ZEH水準を上回る高性能な住まい<sup>注1</sup>を標準化いたします。

政府が目指す断熱性能との比較※

政府は2030年に新築戸建の平均でZEHを目指している。



時代が変わる今だから、政府の目標を上回るスピードでより高い水準への対応を始めます。

※外皮平均熱貫流率（UA値：W/m<sup>2</sup>・K）の比較。  
値が小さいほど熱が逃げにくく、住宅の断熱性能が高いことを示します。

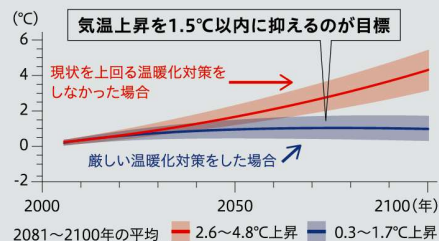
注1 住宅性能表示制度における、2022年10月に改正・施行される断熱等性能等級6を満たす性能（ZEH水準は等級5）及び、一次エネルギー消費量等級6（ZEH水準：20%削減）を上回る30%削減を満たす性能を示す。

■ 2030年の先を見据えて、解決すべき3つの課題

地球温暖化やエネルギーへの不安



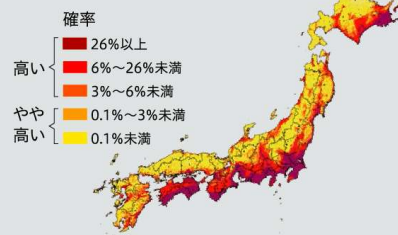
■ 未来への気温上昇予想 出典：環境省「COOL CHOICE」



激甚化する自然災害への不安



■ 30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率

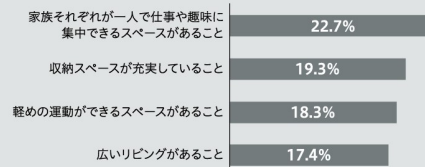


出典：地震調査研究推進本部「全国地震動予測地図2020年版」

多様化する暮らしへの対応



■ 住宅・住宅設備（スペース）の必要性／変化（上位4つのアンケート結果）



情報元：株式会社リクルート調べ 2021年9月 対象人数2100人

■ 今回の提案 「新時代の住まいづくりの特長」

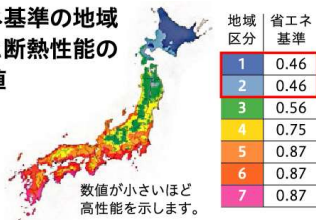


高い断熱性能と電気を自給自足できる設備

快適性

北海道並みの断熱性能

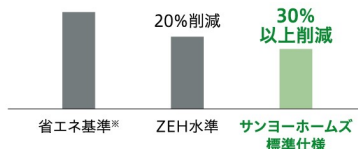
■ 省エネ基準の地域区分と断熱性能の基準値



経済性

ZEH水準の約1.5倍の省エネ効果

■ 太陽光を除く一次エネルギー消費量の比較



環境

電気は自ら創って使う時代

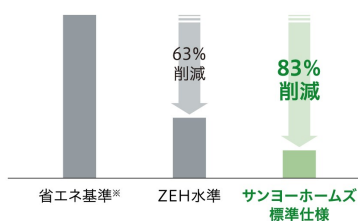


環境

※建築物省エネ法のH28年省エネ基準を示す

環境へ貢献

現行省エネ基準よりCO<sub>2</sub>排出83%削減



年間で杉の木119本分が吸収するCO<sub>2</sub>と同じ (ZEH水準と比べて1.3倍)



自然災害に備えられる安心の鉄骨構造

強靱な構造体

地震の揺れに強く  
柱のない大空間が可能



大空間リビングで思いのままに暮らしをデザイン

自由度の高さ

家族がのびのびと過ごせるワイドリビングが可能



■ さらに、安心・安全な住まいのために、トータルでご提案

レジリエンス(防災力)

災害時の停電に備えた電力をバックアップ (太陽光発電 + 蓄電池、V2H (Vehicle to Home) など)

「年単価」発想 ※

建てた後の維持費をしっかりと抑える (高耐久な外壁材など)

※年単価とは、建築費などの初期費用、光熱費、メンテナンス費を住む年数で割った金額

環境・健康への配慮

人にも環境にもやさしい (空気や温度の対策など)